四国が目指す将来像

~四国の未来創生に向けた問いかけとして~



はじめに

このたび、四国経済連合会では「四国が目指す将来像~四国の未来創生に向けた問いかけとして~」を取りまとめました。

四国にお住まいの方、四国を離れて都会で活躍されている四国出身者の方、四国に関心を持っていただいている方などと一緒になって、四国の将来を考え、四国を夢ある「サステナブルな島」に創り上げていくために、力を合わせて活動していくきっかけづくりになればとの想いを込めています。多くの方に共感していただき、多様な視点からのご提案やアイディアをお寄せいただきながら、私たちの活動の輪に参画いただければ幸いです。

四国は、他の地域に比べ人口減少・高齢化の進み具合が早く、「課題先進地域」と言われています。人口が減り始めて既に40年近くになります。これからの30年でさらに100万人も減少するといった予測もあります。これまで少子化対策、移住施策をはじめ様々な努力が重ねられてきていますが、我が国全体の流れとして、今後ますます人口減少・高齢化が進んでいくことは避けられそうにありません。そのため、私たちは、人口減少・高齢化を前提として、「量から質へ」の転換を図り、これからの社会をどのように魅力あるものにしていくのか、縮小を続ける経済にどのようにして活力を与えるのか、について知恵を出し合っていくことが大切です。

人口が増え、右肩上がりの成長を続けてきた戦後、そして昭和の時代は、施設や設備、建物といったいわゆるハード面での整備が重視されてきましたが、これからの人口減少社会においては、ソフト面やサービスの質的向上に軸足を移し、一人当たりGRP(Gross Regional Product:域内総生産)を高めながら、縮小を続ける地域経済の活性化を図っていくといった発想の転換が重要です。

人口問題を登山に喩えると、山を登る時(人口増)より山を降りる時(人口減)の方が危険度は高く、多くの事故は下山時に発生していると言われています。この教訓からもわかるように、人口が減少していく時代にあっては、一攫千金のように、一つのことを達成して大きな成果を出すことは不可能です。目指す理想の姿を思い描きつつ、多様な分野で一歩一歩「小さな成果」を積み上げて、着実に活動を広げていく地道なアプローチが求められています。

この「将来像」の取りまとめにあたっては、このような考え方を基に、経済団体の方々や、様々な分野で活躍されている実務家の皆さまからいただいたご意見を参考にして、今から着手すべき具体的なアクションテーマを抽出しました。掛け声だけで終わることなく、これらのテーマを実行に移していくことが本レポートの最大のねらいです。

四国には、私たちが気づいていない「宝」がたくさん埋もれていると確信しています。 このレポートがその「宝」に辿り着ける道を探索するきっかけとなり、その活動を続ける なかで修正すべきものがあれば修正する、あるいは別の道にチャレンジする。そうした取 組みを積み重ねることで、一歩でも「宝」に近づいていければと思っています。

是非、多くの皆さまにご賛同をいただき、連携の輪を拡げていければと願っています。 皆さまのご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

2022年4月

四国経済連合会 会長 佐伯 勇人

基本的視点

① 四国の未来を託す将来世代のために!

- ▶ 各界の有識者のみならず、実務に携わる**将来世代の意見**を幅広く聴取し、施策・提案に反映する。
- ▶ 将来世代に「**資の遺産」**を遺さず、地域の未来に貢献する「**プラスの遺産**」を創出し、継承していく。

②「現実」を直視した地に足の着いた施策を!

- ▶ 人口減少、高齢化、過疎の深刻化等の「現実」は受け入れざるを得ないトレンドである。
- ▶ 右肩上がりの成長指向の発想から脱却し、「人口減少・高齢化する社会」にふさわしい施策を 展開する。
- ▶ 老若男女を問わず、**一人一人が活躍の場**を持ち、協力し共存していく**地域社会**を目指す。

③ 四県それぞれの特長を活かし、相互連携によるシナジー効果を開拓!

- ▶ 「四国はひとつ」の実現に向けて、四県や各市町村の特長を活かしつつ、相互にメリットを共 有できる施策を展開する。
- ▶ 特に、「四国」を共通ブランドとした「外から稼ぐ」(域外・海外)ことに重点を置く。

④ 課題解決のための具体的なアクションテーマを抽出し、実践!

- ▶ 問題提起に留まることなく、課題解決のために具体的に取り組むアクションテーマの洗い出し と絞り込みを行い、四経連自らも実践する。
- ▶ 一足飛びに目に見える大きな成果を挙げることを目指すのではなく、<u>モデル的な取組み</u>などによる「小さな成果」の積み重ねを通じて、活動の輪を拡げる。

⑤「アクションタンク」への起点となる今後の四経連活動の指針として!

▶多岐にわたる課題が山積する中、地域活性化への最短の道は、<u>PDCA</u>を回し、<u>トライ&エラー</u>を 重ねながら「<u>正解</u>」を探り当てることにある。こうした理解の下、今後四経連が自ら動き、 アクションタンク活動を推進するうえでの指針として位置づける。

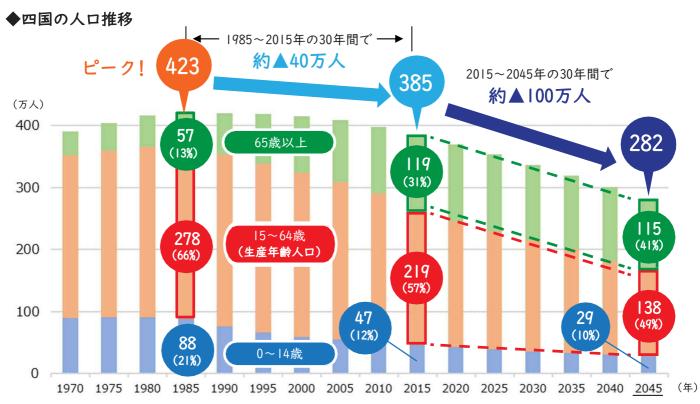
目次

١.	四国の現状および将来予測	•	•	•	6
2.	魅力ある四国であり続けるために	•	•	•	C
3.	四国が目指す将来像	•	•	•	ı
4.	「将来像」の実現に向けたアクションテーマ	•	•	•	4
<補	足資料>意見交換会等を通じ頂戴したご意見・ご提案	•	•	•	2

1. 四国の現状および将来予測

① 人口減少・高齢化の加速

- ·四国では今後、**人口減少のスピード**が一段と加速、**高齢化**もさらに進む。
- ・将来推計によると、<u>2045年</u>には<u>高齢者</u>(65歳以上)の割合が<u>40%を超え、</u> <u>生産年齢人口</u>(15~64歳)の割合は<u>50%を下回る</u>。



(備考) 国立社会保障・人口問題研究所(2018年中位推計)

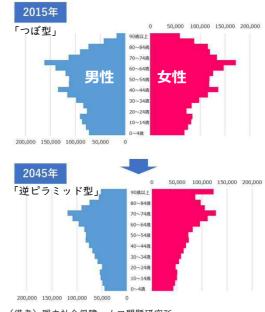
<参考>四国外への転出超過

- ・四国外への転出超過が長期にわたって一貫して継続している。
- ・特に、1993年以降は女性の転出超過数が男性を上回る状況が続いており、少子化の一因になっている。

◆四国外への転出超過の推移

(人) 2,000 転出超過 2,000 -2,000 -4,000 -8,000 -8,000 -10,000 1985 87 89 91 93 95 97 99 2001 03 05 07 09 11 13 15 17 19 21 (年) (備考) 総務省「住民基本台帳人口移動報告書」

◆四国の年齢別人員構成



(備考) 国立社会保障・人口問題研究所

② 人口減少がもたらす負の循環

人口減少が加速することにより、**経済規模の縮小**による**産業・生活基盤の低下**の影響が避け られず、地域の魅力が低下して、さらなる人口流出を招く負の循環に陥ることが懸念される。

人口減少

- ・労働力不足の深刻化
- ・地域コミュニティの機能低下
- ・地場産業、豊かな自然・食文化、 伝統行事等の継承困難化
- ・空き家、空き店舗、耕作放棄地、 荒廃森林等の増加





産業・生活基盤の低下

- ・企業の撤退や廃業 (小売・飲食・娯楽・物流他)
- ・社会インフラの高コスト化、水準低下 (電力・通信・水道・道路・鉄道・バス他)
- ・公共サービスの高コスト化、品質低下 (役所・病院・学校・介護・医療等)

経済規模の縮小

- ・経済活動(消費、生産)の縮小 (四国域内総生産の減少)
- ・企業の売上減、自治体の税収減



四国の域内総生産を維持するためには

人口減少が進む中で四国の経済規模を維持するためには、多様な人材活用や産業構造の変 革などによるイノベーションを通じて、四国の「 一人当たりGRP (稼ぐ力)」を向上させ ることが必要。

◆四国の域内総生産(GRP)の推移

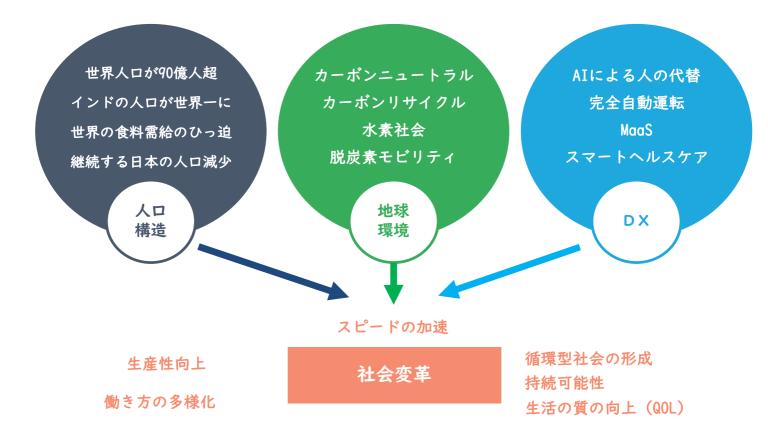


(備考) 各県国民経済計算を元に四国経済連合会にて推計

(注) GRP: Gross Regional Product

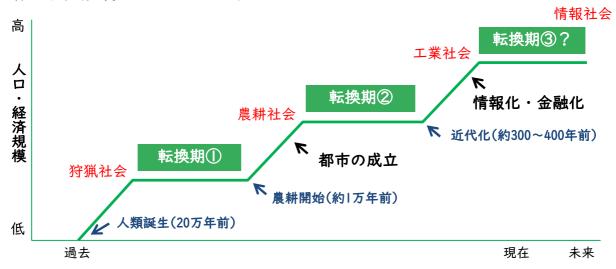
③ 世界的な時代潮流

- ・国内外の経済社会に大きく影響するメガトレンドには、「<u>人口構造の変化</u>」、「<u>地球環</u> 境の保全(脱炭素)」、「DX(デジタル革命)」が挙げられる。
- ・四国の将来を考えるうえでは、足元のコロナ禍による<u>価値観の変化</u>とともに、これらの 時代潮流がもたらす「<u>社会変革</u>」を注視しつつ、持続可能な地域創生を目指すことが求 められる。



<参考>人口・経済の停滞期と価値観の変化

人類史において、狩猟社会から農耕社会、さらに農耕社会から工業社会に移行した二度の転換期において、人口・経済が停滞した。この時期に、哲学的・宗教的な価値観の変化が生じている。今回、工業社会から情報社会へ移行するなか、人口減少に転じた日本など先進国を中心に、Well-being(幸福論)の台頭など価値観の変化が生まれつつある。



2. 魅力ある四国であり続けるために

人口減少・高齢化を見据え、世界的な時代潮流にも目配りしながら、四国をさらに魅力ある地域に創り上げていくために、①「地域色」を活かした経済活性化と②さらなる連携・協調を推進する。

① 「地域色」を活かした経済活性化

- ・四国の特長を最大限活かしながら、<u>域外からの資金流入を増やし</u>、<u>域外流出を減らす</u>とともに、**域内循環を活性化**させることにより経済規模を維持する。
- ・あわせて、こうした取組みに資する人材育成や交通・情報インフラなどの<u>産業基盤の維持・</u> 強化を目指す。

□ 外から稼ぐ (域外流入を増やす)

集積・高付加価値化

- ・農林水産業、製造業、 観光サービス業
- ・加工の高度化、ブランド化

2 内を固める (域外流出を減らす)

地場産業の育成

- ・地域資源の活用拡大
- ・地場企業の最大活用
- ・起業・第二創業支援





③ 内で回す (域内で回す)

域内循環システム整備

・ヒト、モノ、カネ、情報

4 内を創る (産業基盤を整える)

産業インフラの維持・強化

- ・学校教育、人材育成
- ・モビリティ
- ・雇用環境改善
- ・デジタルインフラ

地域の特長を活かす

- ・豊かな自然
- ・温暖な気候
- ・多彩な食材
- ・伝統文化・芸能
- ・おもてなし文化
- ・伝統工芸
- ・ニッチトップ産業

② さらなる連携・協調

- ・**限られた地域資源(ヒト・モノ・カネ)**を有効に活用し、それぞれの立場を越えて、オープンな意思疎通を図り、さらなる相互の連携・協調に取り組む。
- ・四経連は、そのために必要なコミュニケーションの場づくりや協働テーマの提案などの橋 渡し役を担うことを目指す。







3. 四国が目指す将来像

- ・四国を愛する私たち一人ひとりが、想いを一つに、魅力ある四国の未来創生に向け取り組んでいくためには、「四国をどのような地域にしていきたいのか」という将来像を共有することが重要である。
- ・そうした観点から、意見交換会等での示唆を踏まえ、20年程度先を念頭に置いた「<u>四国が目指</u> **す将来像」**を描いた。

◆ 四国を取り巻く内外環境

- ・「将来像」を描く前提として、20年程度先の内外環境を以下のとおり想定する。
- ・外部環境は大きく変化するものの、四国が内包する特長は「<u>地域の宝</u>」として世代を越えて 引き継ぎ、堅持していく。

人口減少 と高齢化

国内の人口減海外の人口増

外部環境

価値観の 変化

多様化・幸福学 /Well-being

> 四国お遍路 接待文化

独立した島

個性ある 伝統・文化

多様な 自然・食・文化等が コンパクトに凝縮

地球環境の 保全

> 自然との 調和・防災

温暖な気候

瀬戸内の多島美、 広大な山林、清流、 海岸線

内部環境

焼物、和紙、人<mark>形浄瑠璃、</mark> よさこい、阿波踊り

四県それぞれに特長を もつ地域

豊かな食

<mark>みかん</mark>、ゆず、すだち <mark>にら、</mark>れんこん、ブロッコリー <mark>鯛め</mark>し、うどん、かつお

DX

デジタル革命 (データ/A I) 少量・多品種の第一次産業 ニッチトップな第二次産業 顧客創造を目指す第三次産業

長寿社会

人生100年時代

適度なサイズ感の「サステナブルな島」



地域の豊かな自然、食の恵み、そして 先人により培われた歴史・文化に誇りを持ち、

老いも若きも、また男女を問わず、 自助共助の心構えの下で、互いを尊重し助け合い、

物心にバランスある豊かさを育みつつ、 住む人が皆、背伸びしない自然体の幸福感を味わっている

大きすぎず小さすぎない 適度なサイズ感の「サステナブルな島」

課題先進地域から転じて、

そのような次代の日本の有り様を先取りするモデル地域を目指す

四つの原色 (特色ある持ち味) を磨き、「かさね色 (連携)」による 新たな彩りを創出する



地域の自然・文化・伝統を活かし 「オンリーワン四国」の創生



SUSTAINABLE

自然に寄り添う循環サイクルへの 回帰、そして将来世代のニーズへ の思いやり



DIVERSITY

老若男女を問わず、 全ての人が活躍し

地域貢献に参画する社会づくり

◆「四国が目指す将来像」に託した想い

- 生まれ育った**郷土四国**のことをしっかりと**知り学ぶ機会**を作りましょう
- そうした学びを通じ、世界に誇れる<u>美しい自然</u>、<u>食の豊かさ</u>、<u>伝統文化</u>などの 素晴らしさを**再認識**し、後世に受け継いでいきましょう
- <u>高齢者の皆さん</u>が外に出て<u>活躍する場</u>や若い世代と<u>交流する機会</u>づくり、<u>女性</u>が 持ち味を最大限活かせる雰囲気づくりに真剣に取組みましょう
- <u>公的な支援</u>に頼ることには<u>限界</u>があることを共有し、一人ひとりが<u>自立心</u>を養い、 互いの立場を尊重し**助け合う社会**を創っていきましょう
- ○「<u>生活の糧</u>」(経済的基盤)と「<u>平穏な心持ち</u>」(精神的安心)を過不足なく満たしていくため、新たな発想から**地域活力の向上**にチャレンジしていきましょう
- その際、「ミニ東京」のような都会模倣型の街づくりとは一線を画し、四国の特質を生かす**独自色のある地域創生**に挑戦していきましょう
- こうした取組みを通じ、「<u>課題先進地域</u>」を乗り越え、人口減少社会において 我が国が進むべき**針路を先取りする「モデル地域」**を目指しましょう

適度なサイズ感

- 四国の面積:約2万km、日本全体の約5%、主要四島のうち最小の島
- ・ 4県の県庁所在地間の移動時間: 2~3時間 (今後の交通インフラ整備により更に短縮)
- ・大きすぎず小さすぎない島の中に、多様な自然美、食文化、伝統芸能、生活慣習などが凝縮
 - ⇒・日本の伝統・文化をコンパクトに体感できるテーマパーク!
 - ・現代版四国霊場の整備(「橋を渡ればスローライフ空間!」) など

サステナブルな社会

- ・世界的な活動指針となっている「SDGs(Sustainable Development Goals)」が目指すサステナブルな社会とは、地球環境を壊さず、資源も使いすぎず、未来の世代も美しい地球で平和に豊かな生活を続けていける社会
- ・根底にある考え方は、「将来世代への思いやり」にあり、人類を含めた生物の本能とも言える「種の保存」に通じる普遍的な価値観への回帰を促すもの
- 工業社会・情報社会における経験を踏まえての次なる社会形成の道筋を模索する取組み

<参考> 「持続可能な開発 (Sustainable Development)」の定義

・将来世代のニーズを満たす能力を損なうことがないような形で、現在の世代のニーズも満足させるような開発 (1987年 国連/環境と開発に関する世界委員会)

4.「将来像」の実現に向けたアクションテーマ

「四国が目指す将来像」の実現に向けて取り組んでいく<u>具体的なアクションテーマ</u>について、 意見交換会等でのご意見などを踏まえて、以下のとおり整理する。

① アクションテーマの抽出とその視点

- ・4つの視点(「外から稼ぐ」「内を固める」「内で回す」「内を創る」)から、<u>アクショ</u> ンテーマを抽出するとともに、具体的な検討のための**参考事例**を提示する。
- ・テーマの抽出にあたっては、<u>意見交換会等でのご意見・ご提案</u>を踏まえるとともに、既に<u>先行的なチャレンジ</u>が行われている活動を<u>広域展開</u>するといった視点からのアプローチも行う。

外から稼ぐ (域外流入を増やす)

集積・高付加価値化

- ▶ 四国産品の外販活性化、地域産業の生産性向上支援
- ▶ 広域的観光の振興・推進
- ▶ 関係人口増を目指した誘引・定着施策の展開

内を固める (域外流出を減らす)

地場産業の育成

- ▶若者の域内就業に資する情報提供の強化
- ▶起業・第二創業支援

内で回す (域内で回す)

域内循環システム整備

- ▶ 郷土愛・四国愛を育む教育の充実
- ▶ 域内循環社会の構築、地域一体となった環境保全
- ▶ 相互連携・協調に資する対話の場づくり

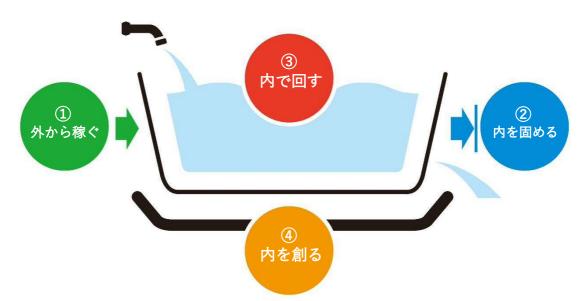
内を創る (産業基盤を整える)

産業インフラの維持・強化

- ▶ 地域産業力の維持・向上に向けた人財の確保
- ▶地域の実情を踏まえたインフラ整備の推進



4つの視点を、バスタブに例えると…



② アクションテーマの実践

- ・アクションテーマは、先行事例の有無、着手可能性、重要性などを勘案し、
 - **足元から着手するテーマ**(当面の2年程度で着手するもの)
 - 将来課題として認識しておくテーマ

に整理する。

- ・アクションテーマの実践にあたっては、<u>PDCA</u>を回すことにより進捗を確認するとともに、<u>アクションテーマの再設定・アプローチ手法等の再考</u>を行いながら、<u>将来課題(中長期的課題)</u>にも順次着手していく。
- ・具体的な検討は、四経連の各委員会が主体となって進めていく。
- ・活動状況についてホームページ等を通じた<u>情報発信</u>を行い、協働・参画していただける組織・団体等を募り**活動の輪**を拡げていくことを志向する。

◆アクションテーマの実践プロセス ~宝石加工に例えると~



アクションテーマの再設定・アプローチ手法等の再考

<参考> 四経連 各委員会の主な活動内容

産業振興委員会

産学連携の強化、起業人材の育成、ビジネスマッチングなどによる販路開拓支援などに取り組む。

観光振興委員会

四国各地に点在する観光資源を広域的に結び付け、四国全体としての魅力向上・情 報発信強化に努める。

DX推進委員会

四国の抱える様々な課題の解決に向けて、デジタル技術の社会実装につながる取組み を通じ、四国におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)の進展を図る。

人口減少対策委員会

人口減少が全国より速いペースで進む中、人材の域外流出抑制・流入拡大、子供を 産み育てやすい環境の整備などに取り組む。

◆ 外から稼ぐ

- A	<i>4- 67</i>) . Yn	アクションテーマ		
区分	施策と狙い	着手テーマ	将来テーマ	
	A 四国産品の外販活性化 ねらい ・域内経済の縮小をカバーする ための域外販売強化	 ①地域産品の販路拡大支援 【例】四国域外での販促イベント、他地域経済連合会と連携したマッチング・ワークショップの開催 ②海外販促支援 【例】・JETR0四国ブロック等支援団体との連携強化・中華民国工商協進会等とのビジネス交流 	・他地域との産品販売・観光振興面での連携 【例】課題先進地域の各経連との連携による地域間交流 ・地域連携商社の支援・設立 ・「四国ブランド」の創設 【例】・一自治体一品運動 ・ふるさと納税返礼品の体 系的PR ・各県産品を一元的に取扱う 「四国アンテナショップ」 設置	
外から稼ぐ	B 地域産業の生産性向上支援 ねらい ・デジタル技術の活用推進 ・地理的ハンディ等の克服	③デジタル技術を活用した 地域産業の活性化 【例】-次産業振興のためのデジタル 技術活用	・物流の効率化・低コスト化 【例】貨客混載、共同物流 等・地域産業振興に係る補助金・協力金の効果的な連携に関する提言・農業法人の大規模化・漁業の企業化推進	
	C 広域的観光の振興・推進 ねらい ・他産業との様々な結節点を 活かした観光産業の拡大や 高付加価値化	④「四国の観光ビジョン」の 具現化に向けた実践活動【例】・域内DMO等の連携促進 ・マーケティングカの向上 ・西日本広域観光連携の体制づくり	・他地域を結ぶ観光ルート形成によるインバウンド観光の強化 【例】・四国を結節点とする周遊ルート形成(ex. 北海道~四国~沖縄)・観光振興を担う中核人材の招聘・育成強化	
		⑤「四国の宝」としての四国通 【例】・域内での四国遍路の文化的価値 ・文化的価値の維持・継承につな	の認知度向上	
	D 関係人口増を目指した 誘引・定着施策の展開 ねらい ・サテライトオフィス誘致な どの好事例を参照し、四国 特有の誘引、定着施策を展 開し関係人口増加へ	⑥四国内の関係人口づくり 活動の有機的連携【例】四国各地での取組みを面的・複合的な活動に拡げ、関係人口づくりを広域的に展開	・四国の特性を活かしたユニークな誘引施策の検討・実践 【例】・農業・漁業などの実体験機会の提供(一自治体ー品型) ・四国出身の著名人招聘による各種イベントの定期開催など	

◆ 内を固める

区分	施策と狙い	アクションラ	テーマ
	他来と狙い	着手テーマ	将来テーマ
内を固め	E 若者の域内就業に資する情報提供の強化 ねらい ・地域活力の源泉になる若者の域外流出抑制と域外からの還流	⑦リターン就職を喚起する地域情報の発信 「域外大学進学生、東京圏・関西圏に就職した若者を主な対象として 「例」・4県と協力した合同企業説明会の開催 ・域内企業情報の体系的提供・郷土への関心を促す域内動の情報提供スキームの構築 ⑧域内で就学する学生への企業情報の提供 「例」・地元企業の魅力度をアピールするためのイベントへの出展	・東京圏・関西圏の学生・就 業者との交流機会の拡充 【例】・域内企業経営者との意見 交換会 ・域内の起業家や二地域就 業者による講演会 ・魅力的かつ簡便な企業訪問機会 の提供
3	F 起業・第二創業支援 ねらい ・新産業の創出および産業構 造転換の原動力となる起業 支援	・大学・高専等での企業紹介の場づくり ・地元大学との連携強化 「伊起業家・有望成長企業の発掘・支援と起業人材の育成 「例」・四国内の有望成長企業と四国内外企業とのマッチング推進・キャンパスベンチャーグランプリ四国の開催を通じた起業人材育成・産学連携の更なる強化	・四国発ベンチャー企業への 支援体制の構築・強化 【例】・四国内の起業家支援団体 との連携強化による情報 共有 ・起業家による定期勉強会 開催等を通じた起業機運 の醸成

◆ 内で回す

	アクションテーマ		
区分	施策と狙い	着手テーマ	将来テーマ
	G 郷土愛・四国愛を育む教育の充実 ねらい ・域内就職やUターン就業、四国定住の誘引策として、四国をよく知り誇りある郷土愛を培う教育施策の充実	 ⑩各教育機関との連携による 「故郷四国を学ぶ教育」の 充実 【例】・初等・中等教育の場での四国 の地理、歴史などの学習機会 充実 ・四国が誇る伝統産業・工芸、 地域芸能、名所旧跡などを紹 介する学習教材の提供 	・四国の歴史や伝統文化等の 保存と将来世代への継承 【例】・各種分野における「語り 部大使」の選定・活用 ・後世に伝える文書・映像 記録の伝承
		①各メディアとの連携による 地域情報の域内発信の強化【例】各メディアに対し隣県情報の相 互発信を働きかけ、四国全域で の情報流通による域内交流を活 発化	
内で	H 自律的な域内循環社会の構築を目指した取組みねらい ・大都市依存型から、四国の特性を自ら最大限に活用していく地域循環経済を指向	②地域産品消費や生産過程での地域資源の最大活用などに関する意識高揚 (外販収益とのバランスを考慮しつつ推進) 【例】・地域産品・サービスに関する情報共有、四経連会員企業での優先購入・利用の推進・産食率(提供食材数のうち地元食材数の割合)の表示活動	・四国全体での域内通貨の創設
回す	I 地域一体となった環境保全への取組みねらい ・四国が誇る自然環境、世界共通の課題である地球環境を将来世代に継承していくことを目指し、四国独自の環境循環の取組みを推進	(③脱炭素社会に向けた取組み 【例】・脱炭素化の課題、国内外での 取組状況等の情報提供 ・域内外での自治体・先進企業 等での取組事例の情報共有 ・産官学協働での取組施策の 検討 (④観光地に相応しい地域美化 活動の推進 【例】・四国遍路道や周辺環境の保全 活動 ・各地域の実情に応じた環境美 化活動の機運醸成 (ゴミのない街、特産花の植栽、 神社・仏閣の整備など)	・自然環境保全や防災面も考慮した林業振興策の検討 (補助金活用による) 【例】・間伐材を活用したバイオマス発電・地元木材・木製品の利用促進・計画的な植林活動
	J 相互連携・協調に資する 対話の場づくり ねらい ・地域間・産官学・世代間の 連携強化を図っていくため の素地を整える観点から、 本音で率直な意見交換がで きる場づくりを目指す	(5)経済界(四経連)を橋渡し役とする各界各層との対話機会の設定 【例】・四経連の各委員会活動における意見聴取の積極展開・特定テーマに焦点を当てた世代間の意見交換会の開催(オンライン会議・SNSの活用)	

◆ 内を創る

豆八	施策と狙い	アクションテーマ		
区分		着手テーマ	将来テーマ	
	K 地域産業力の維持・向上 に向けた人財の確保	⑩担い手不足、働き方改革な ど社会構造の変化に対応し た人材育成・活用	・産官学協調によるリカレント教育、リスキリング教育の充実に向けた仕組みづくり	
内を	れらい ・経済活力の維持・向上を図っていくうえで鍵を握る「人財」の確保について、今後の社会構造の変化を踏まえつつ最重要課題として取組み	【例】・ダイバーシティ経営に向けた機運醸成 ・多様な人材(女性・高齢者・障害者・外国人)が活躍できる就業支援等の環境整備 「デジタル化(DX)に関する情報提供・啓発と専門人材の計画的育成 【例】・四国地域の実情に即したデジタル化の意義・可能性の認識共有 ・大学・専門機関等との連携によるデジタル人材の計画的育成	・異業種間等での人材交流に よる幅広い視野を持つ人材 育成 【例】・第一次産業従事者と第二 次・第三次産業従事者と の人材交流 ・他地域との人材交流(特 に都市圏との相互交流) ・産学間での定期交流の仕 組みづくり	
創る	L 地域の実情を踏まえた インフラ整備の推進	®過疎化が進む地域における 交通利便性の維持に向けた 検討	・将来を見据えた域内交通シ ステムの在り方検討 【例】・先々の人口動態や移動手 段に係る技術進展、コス	
	れらい ・地域の利便性維持や防災等 に資するインフラ整備について、人口減少・高齢化が 進む中で、将来世代に過度 な負担を遺すことがないよ う計画的な整備を推進	【例】・過疎化が進む地域における移動手段の確保について、デジタル技術等を活用した効率的モビリティ体系を検討 「例域内交通網の高速化推進 【例】・四国の新幹線の実現に向けた取組み	ト負担等を念頭に置きつ	
		・8の字ネットワークミッシン グリンクの早期解消②南海トラフ地震や多発する 風水害の防災・減災対策		

<監修にあたって>

時代が大きく変わろうとしています。SDGs、ESG投資、脱炭素(カーボンニュートラル)という世界的な潮流のほか、国内では豪雨被害や海水温度の上昇などの気候変動によって農林水産業が甚大な影響を受けています。こうした中、人口減少・高齢化が進む四国経済において、新たな活力を生み出すために、どのような視座をもって、どのような活動に結びつけていけば良いのでしょうか。これが、今回の四国経済連合会に与えられた命題です。

「四国が目指す将来像」を検討するために収集した、若手実業家等を筆頭に、多くの経済団体の財界人からいただいたナレッジの一覧表は、それ自体が貴重な情報です。四国を適度なサイズ 感 の「サステナブルな島」と位置づけ、域内での四県一体となった取組みをめざすとともに、域外では四国と縁のある人々を含めた新しい関係性を構築していくことを前提に議論を進めました。

監修にあたり留意した点が三つあります。

ーつめは、「バイアス/客観性」。バイアスとは、先入観や一方的な思い込みなどで、視野の狭い思考に陥る現象です。まずは、データ(数字)を元に客観的に自らの地域を分析して危機意識を共有すること、次に、データの"外"に隠れている新しい可能性(ポテンシャル)を掘り起こすことです。これは、地域創生のステップ(発掘→研磨→発信)の"発掘"にあたります。

二つめは、「多様性/包摂性」。SDGsの二本柱でもありますが、企業の規模や世代の壁を超えて、地域が一体となる"全員野球、全員サッカー"がゴールになります。オーストリア・ハンガリーの経済学者ヨーゼフ・シュンペーターが理論化したイノベーションは、"異(イ)"を述(ノ)べると言われます。これまで出会うことのなかった域内外の人や企業がつながる場づくりで地域資源を"研磨"します。

三つめは、「言葉のデザイン」による"発信"。地域資源の魅力(コンテンツ)を伝達するためには、 "3つの R"とされるRepeat(繰り返す)、Rename(言い換える)、Reframe(視点を変える)が有効です。人は、 知らないものは好きにならないのです。北海道の「インカのめざめ」、長崎の「龍馬が愛した珈琲」など、 口コミで広がっていく"2秒"のマーケティングとブランディングは役に立ちます。

物質的な欲求が満たされて精神的な欲求が重視される時代になって、消費者もどのような商品サービスを求めているのかがわからない不確実な時代に入っています。元乃隅神社(山口県長門市)や貴志川線貴志駅(和歌山県紀の川市)は、小さな成果が見えたら俊敏に対応するリアルオプション型(小さく始めて大きく育てる)の先行事例です。最近、Well-being(幸福学)という新しい価値観に注目が集まり、心豊かな社会や生き生きとした職場への関心が高まっています。四国の未来創生に向けた取組みは、始まったばかりです。地域のアイデンティティ(個性)を大切にしながら、そこに新しいトレンドをブレンド(温故知新)して、目に見える成果を積み上げてください。期待しています。

鍋山 徹 一般財団法人 日本経済研究所

専務理事(チーフエコノミスト) 新産業創造業務統括 地域未来研究センター長



<鍋山徹氏の経歴>

1959年生まれ、福岡県出身。1982年早稲田大学法学部卒業後、日本開発銀行(現日本政策投資銀行)入行。営業、審査・調査(エネルギー、化学、電機、観光サービス他)などを経験し、2000年米国スタンフォード大学国際政策研究所客員研究員。2009年日本政策投資銀行産業調査部長(2011年チーフエコノミスト)。2013年より現職。2010年~2014年テレビ東京ワールドビジネスサテライトのレギュラー・コメンテーター。2011年~2015年福岡地域戦略推進協議会(FDC)ディレクター。日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)林業復活・地域創生WG主査、新化学技術推進協会(JACI)戦略委員会委員 他公職多数

意見交換会等を通じ頂戴したご意見・ご提案

◆ 経済団体・若手実業家等との意見交換会等の開催状況

時期	実施事項	概要
2020 年度	ヒアリング	実業家や地域創生に取り組む活動家など約40名 の方にご協力いただき、個別ヒアリングを実施

	若手実業家等との 意見交換会 (5/27~7/20)	個別ヒアリングにご協力いただいた方を中心に、 四経連役員を交えた意見交換会を開催し、四国 の課題や将来像に関するご意見を聴取 (34名・6 グループ×2回、計12回開催)
2021 年度	経済団体との 意見交換会 (8/30〜9/9)	経済団体(県商工会議所連合会、経済同友会、 日本青年会議所四国地区協議会)にご協力いた だき、各県単位で意見交換会を開催し、ご意見 を聴取
	アンケート調査 (5/12~6/11)	四国外に本社がある四経連会員企業にご協力いただき、外部目線からの四国の課題や活性化提案等、「外から見た四国」のアンケート調査を実施 (16社から回答)

◆ 「若手実業家等との意見交換会」にご参加いただいたみなさま

※50音順敬称略

氏名	所属等
畦地履正	
飯原美保	「株式会社しごとマルシェー代表取締役
井上孝志	「井上石灰工業株式会社」代表取締役社長
梅原真	「梅原デザイン事務所」代表
大南信也	「認定特定非営利活動法人グリーンバレー」理事
岡崎晋也	「株式会社ゆうぼく」代表取締役
小方直幸	「香川大学 教育学部 学校教育教員養成課程」教授
荻原寿夫	「イヨスイ株式会社」営業戦略室長
樫山直樹	「有限会社樫山農園」代表取締役
加戸慎太郎	「株式会社まちづくり松山」代表取締役社長
鎌田長明	「鎌長製衡株式会社」代表取締役社長
川鍋達	「すさきまちかどギャラリー」館長
河原成紀	「学校法人河原学園」理事長
近藤洋祐	「株式会社電脳交通」代表取締役社長
島隆寛	「株式会社シケン」代表取締役社長、「四究会」第16・17代会長
嶋﨑裕也	「株式会社アースエイド」代表取締役
白鳥恵利子	「Cafe Ayam」代表
隅田徹	「株式会社プラットイーズ」取締役会長、「株式会社えんがわ」代表取締役社長
孫璇	「株式会社いよぎん地域経済研究センター」調査部研究員
武田惇奨	「株式会社武田林業」代表取締役
田村樹志雄	「株式会社KOKUBAN」代表取締役
杼谷学	「神山町役場」総務課課長補佐
中橋恵美子	「認定NPO法人わははネット」理事長
永原レキ	「in Between Blues」代表、「合同会社みつぐるま」共同代表
中村大輔	「AYAMS」代表
早川尚吾	「株式会社リブル」代表取締役
廣瀬圭治	「キネトスコープ社」代表
藤田徳子	「株式会社フェアリー・テイル」代表取締役
牧秀宣	「有限会社ジェイ・ウィングファーム」代表取締役
町田美紀	「株式会社and.」取締役
宮本泰邦	「農業生産法人株式会社ミヤモトオレンジガーデン」代表取締役
森本健一郎	「株式会社アイムービック」代表取締役社長
山岡健人	「株式会社アドリブワークス」代表取締役
吉田基晴	「株式会社あわえ」代表取締役

◆ 「意見交換会」にご協力いただいた経済団体

	団体名
徳島	・徳島県商工会議所連合会 ・一般社団法人 徳島経済同友会 ・公益社団法人 日本青年会議所 四国地区 徳島ブロック協議会
香川	・香川県商工会議所連合会 ・一般社団法人 香川経済同友会 ・公益社団法人 日本青年会議所 四国地区 香川ブロック協議会
愛媛	・愛媛県商工会議所連合会 ・愛媛経済同友会 ・公益社団法人 日本青年会議所 四国地区 愛媛ブロック協議会
高知	・高知県商工会議所連合会 ・土佐経済同友会 ・公益社団法人 日本青年会議所 四国地区 高知ブロック協議会

人

減

少

少

子

高

齢 化

将 来

ŀ

レ

ン ド

▶ 意見交換会・アンケート調査により頂戴した主なご意見・ご提案

四国の現状と将来予測

人口減少・少子高齢化は、残念ながら進行してしまうが、足元の四国で困っている人が多いとは思えず、周 りの自治体の人口が減るとか減らないとか、あまり気にされていない方が多いのではないか。**他人事と捉** えているならば大きな問題で、このような状態がズルズル続きそうで怖い

伝統的な制約や分業感、旧来型の文化が残っていて住みづらいことが、女性が田舎から出ていく理由に挙げ られる。根本から変えていかなければならないのではないか

女性が流出する要因の一つは、女性のロールモデル的に活躍している人材が少ないこと

関係人口について、地域の人よりも、地域のために力を注いでくれていることもある。必ずしも定住人口に 囚われる必要はない

どれだけ緩やかに縮小していけるか。一番避けたいのは急激な変化。特に集落や地域の文化、代表例であ るお祭りなどはショック死してしまう。一定のボリューム(人口)がないと続かないものが多い

人口減少自体は起こることなので、良い悪いではない。人の少なくなった集落だとか地域の生活が維持で きなくなるなど、**生活に近いところでの課題意識が重要**になる。成行きの未来だと考えたことを**どうやれ** ば成行きではない未来に変えていけるかの視点

人口減少は単なる現象に過ぎない。それよりもGDPの減少にまず注目する必要

人口減少はじめネガティブな潮流は、そのまま進んでいくイメージ。一方で、急速なデジタル技術の進展 **とかカーボンニュートラルなどは、正直あまり現実味がない**と感じている

デジタル化の潮流は四国全体で捉えていかないといけない。次の産業を担う人材たちがデジタル領域の ツールに慣れて駆使することは少子化を考えても必須

DXやICTは何かを達成するためのツールでしかないが、現時点でデジタルやICTを活用しなければ、今まで と違う産業づくりはできないのも事実。プログラミングができることが大事なのではなく、それを使って 何を生み出せるかを示していくことが必要

エコノミスト等から $5\sim6$ 年後の**日本において、食糧の買い負けが起きる**という指摘がある。さらに将来、 仮に中国やインドが外国人材に依存する形になるとすれば外国人雇用の面でも世界の中で負ける可能性が **ある**ということ

「資源が有限である」ということに対するアプローチがこれまで以上に大事

商業的に成功していた時期に立ち戻っていくような希望をよく聞くが、**昔のような形で栄えるのは困難**

危機感がないといくら施策を打っても響かない。「若者が出ていった後の地域をどうするのか」との問い には「行政が何とかしなくてはならない」との答えが多いが、自分たちの手で変えなければならないこと を伝えていく必要がある

そ の 他 太宗の人は、あまり課題感を持たれているように感じない。皆さん他人事として捉えている所が一番の問 題なのかと思う

人を動かすには「四国がこうなったらよい世界になる」という**前向きな話をしていくべき**ではないか

どちらかと言えばマイナスの遺産を遺してほしくない。使われない土地が大量にあるとか、後の世代に負 担をかけるインフラなど、マイナスの遺産が沢山あるので、これらをどのようにリストラクチャリングし ていくのかという観点が必要

もはや全部が選べる時代ではないため何かを選び取っていく姿勢がなければどれも中途半端に終わってしまう

四国の強み・弱み(特徴)

四

玉

の

強

み

弱

み

サーフィン、釣り、石鎚山や剣山など、海にも山にもアクティビティ、景観、観光資源があり、藍や林業 など衣食住を育む土壌とそれを活かす伝統・加工技術が残っている

他地域と比べて圧倒的優位なものがあるかというと、お**遍路や阿波踊り、多島美などいくつかの特徴的な もの**を除くとそうではない

最も普遍的なことは「島であること」「400万人弱という適当な人口のサイズ」で、これは価値がある

四国の魅力はキュッと縮まっていろいろな事ができること

魚ひとつとっても、瀬戸内海のものと太平洋のものとは全く種類が違う。各地域の魅力を組み合わせ、四国 という一つの単位で捉えたい

四国を語る上で重要なキーワードは「4つの個性四国」。四国に訪れたら4つの違う個性が楽しめるという **ことが四国の本質**。「四国が一丸になって」という言葉は、それぞれの個性が横に連携しているイメージ

仕事ではデメリットがたくさんあるが、人間らしい生活をするという観点では素晴らしい場所、自分への向 き合い度合いが成長して気づく面がある

四国にも都市部にも各々強み・弱みがあり、その掛け合わせが大事で、四国と都市部の凸凹を上手く探し出 す必要

四国は「課題先進地域」。先んじて課題解決に取り組めるという意味で強みであるが、課題をチャンスと して見られる人の少なさが弱み

ベンチャー起業など、新たなものが起きる度合いが他の地域に比べて少ない

◆四国の将来予測、四国の特徴(強み・弱み)に関するご意見(まとめ)

太字:

特に四国の特長と 意見があったもの

四国の成行きの未来

- ・全国で最も速いペースでの少子高齢化 (2045年の高齢化率は40%を超過)
- ・ 一次産業の衰退(森林の荒廃、耕作放棄地の増大)
- ・公共交通の撤退、旅客・物流の崩壊
- ・自然災害の発生可能性が高い(南海トラフ地震)
- ・インフラの老朽化(道路・橋梁)
- ・域内・国内経済・市場の縮小

回避

四国の強み

- ・独立した島で、多様な自然・食・文化等がコンパクト に凝縮されていること
- ・独自の歴史・文化(四国お遍路、接待文化)
- ・伝統工芸・芸能
 - (焼物、和紙、人形浄瑠璃、よさこい、阿波踊り)
- ・**自然豊かな環境**、温暖な気候
 - (瀬戸内の多島美、広大な山林、清流、アウトドア)
- ・島であること、適当なサイズ感
- ・少量多品種の第一次産業
- ・ニッチトップな第二次産業

活かす

四国を取り巻く潮流

- ・世界人口はアジアを中心に継続的に増嵩
- ・行政・企業のデジタル化推進が加速
- ・日本及び主要各国が脱炭素化に向かう
- ・人々の価値観・幸福感の多様化
- ①コロナ禍によるこれまでの価値観の揺らぎ
- ②デジタルネイティブが経済・社会の主体へ移行

四国の弱み

- 人口減少、少子高齢化等の課題先進地域
- ・弱みや課題をチャンスとしてとらえる人の少なさ
- ・各県域の取組みに比べ四国大での営みが少ない
- ・県内総生産額が低位(四国全体で日本全国の3%)
- ・若者の受け皿となる魅力的な職場が少ない
- ・物流コストが高い
- ・新産業への進出、創出が弱い
- ・IT等の高スキル人材が足りていない
- ・内向的、閉鎖的(海外、異文化受入れの非柔軟性)
- ・ダイバーシティが非常に低い

魅力ある四国であり続けるために

人が減ってお金もないという厳しい状態になった時にやる事が何かと言うと、やはり**外からお金を稼ぐことと、中の人口を増やすことの2つになってくる**。そういった観点で大きくスローガンをあげるのがよい

地域産

業

の育

産業をどうつくっていくのかが人口減少への一つの対策。過疎化が進んだとしても、主要産業がしっかりしていれば、人々は働き、住み続けられる

地域内での資金・資産循環が重要だと考えている。外貨を獲得し、さらに経営の観点から外に払っているものを減らすために低コスト、省エネ構造をベースに考えていくとよい

· 強

化

成

域外に本社がある大規模商業施設が売上を増やしても、立地地域に落ちるのは多少の消費税や固定資産税に過ぎない。利益は全部本社所在地に行ってしまう

地域内でお金を循環させることで経済効果が3~4倍になる。安いという理由で全国展開の大規模商業施設に行くために**地域のお金が中央に吸い上げられていく仕組みを知ることが大切**

流通を一から辿ったとき、本当に地産地消なのかを見極める視点は重要だと思う。地元の材料、四国の材料 に置き換えていける、と考えていく中で地域の森林資源が活用されていくという方向性は必ずある

観光は四国各地を回遊する仕組みが必要。海外のエージェントにプレゼンをする際、県単位では響かない。 様々な顔を持つ「島」の魅力を訴え、四国全体や西日本、瀬戸内などの単位など四国外とも連携しての誘客 が必要。結果として四国の露出機会が増え、認知度の一層の向上にもつながる

相互連携

それぞれの団体が得意なところで協力できればよく、そのためには情報共有の場があればよい。何かに取り組む際に、これなら一緒にやれるという下地ができるとよい

日本という国には若者・青年の声を代表する存在や、声を反映する仕組みがない

人口減少が進むことにより、売上が減り立ち行かなくなる産業・事業が増えていく。業種を超えた連携を加速させていく必要がある

良いコンテンツが豊富にあるにも関わらず、連携を生み出そうという意思がないことが大きな問題

異業種の人とお互いがメリットのあるような取組みにしていければ、一次産業を強力な産業に育てることができる

異業種で集まってアイディアを出し合うのは面白い。広い視野を持ち、横のつながりを大事に、市場を拡 げていくという取組みも大事

建携・協調

かからなく	
	「 外貨の獲得」、「外に売る」、「ブランド 」をキーワードにしてほしい
	四国の一次産品・加工品をブランディングして、ストーリーを付して販売する必要。販売ができないと一次産業者はいつまでたっても下請けでしかないので、農協や地域商社などのチャネルを使いつつ四国として一丸となって売っていくことは大事
	販路拡大に協力してくれる組織は多いが、ばらばらに対応できるほどの人手・システムが 足りないのが実態
四国産品の	東京のアンテナショップは、香川・愛媛、徳島・香川は一緒に運営しているが、 1カ所で 4県の産品を取扱うことはできないか
外販活性化	四国のブランドリストを優秀なブランドデザイナー(シナジーを俯瞰的に見る立場の人材) に見てもらい、面白そうな組み合わせを抽出し、関係団体が連携して売り出すことが足下の 成功体験になる可能性
	ブランド作りにはコンセプトやデザインの軸が重要。軸は地域によって違うと思うので地域 の人たちがしっかり考えて作っていくことが必要
	世界における人口増加を受けて、10年後には世界的な食糧問題が出てくるため、農水産物の 輸出が重要になってくる
	一次産品・加工品の 海外輸出は、プ ラットフォームとして の通関商社が必要。地元の商社が 少なすぎる
	スマート農業により温度管理や水やりを省ける。 農家が経営者になるための必須の技術
	四国は消費地(東京・大阪・福岡等)に離れているため、 物流費がネック になる。 大きなロットで輸送できるよう 農業・水産業・林業との 共同配送の仕組みやJR・バスの活用等 を話し合えば、いろいろなアイディアが出てくると思う
地域産業の 生産性向上	財源不足、人口減少・高齢化など抗えない部分は、より一層自治体の連携、県市町村間の 足並みを揃えて対応にあたる必要がある
	農業振興地域と市街化調整区域を改めて線引きし、連田化や耕作放棄地の活用を促すべき。 農地が小さく、北海道や東北には勝てない。規制を緩和してもっと自由な発想やアイディ アを具現化しやすい法整備、自治体の条例での柔軟な運用が必要
	養殖業を大きくするには、改正漁業法によって解禁された企業養殖が必要。養殖事業参入 者に特化したファンド組成等で後押ししてほしい
	四国周遊型観光をベースにしていく必要。例えば、瀬戸内国際芸術祭のお客様が四国各地 のアートイベントに足を運び、四国の魅力を見てもらえるような仕組みがあればよい
広域的観光の 振興・推進	コロナ禍後の新しい観光のあり方を四国が考えるべき。食べ物や風景、一次産業、農業の手法、水産業など、その土地の力を使ったものを観光というキーワードで括って1つの産業を見出せる。4県それぞれの個性を同じ価値観のもとに展開して、観光を大きな産業にしていくべき
	四国遍路は4県が力を入れられる共通項 であり、発信力を持っている。世界発信していく ことは大きなテーマ
	日本はブランドデザインが昔からできていない 。例えば、何処でも家や電柱が立ってしまう。四国には景色の良い所が未だ残っているので、売りにするべき
	サテライトオフィス誘致では、日本でトップクラスの実績があり、 徳島のデュアルスクール のような流動性の高い生き方を積極的に受け入れる四国をアピールしてはどうか
関係人口	四国外の人とコミュニケーションを継続しながら、外から来る人と地域の事業者がプロ ジェクトを少しずつ作っていく、そして再訪が繰り返されていくモデル作りが必要
	課題を解決するジョブ型の仕事を用意し、 都市部の優秀な人材を副業、テレワーク等を通 じて、受入れ産業、ビジネスがあることを四国から積極的に発信できないか

内を固める

大人は「都会に憧れをもつ」と簡単に言ってしまうが、子供からすると自分のやりたいことをつきつめられる場所・経験が限られていて、それで**都会を選ぶしかなく、都会に出て行ってしまうことは仕方ない。地元の素晴らしさや企業の紹介をもっと積極的にやるべきで、出て行った後に帰ってきてほしいことをきちんと伝えるべき**

地元に留まらず一度は外を見るべきで、外を見たからこそ地域の良さが分かる。四国にいる間に四国のことを学んでこなかった。自分たちの産業がどれだけ大切なものか教えることが 大切

地元企業や就職関連情報が四国外に住んでいる地元出身者に届いていないのではないか。 既に流出した県内出身の若者との接点を作ることが非常に大事

U タ ー ン 支 援 等

大手の求人サイトは、**採用希望数が少ない中小企業にとっては掲載料が高い**。求人募集をしていること自体が伝わっていないと感じており、**地元に根差した就活サイト**があることも 積極的に伝えなければいけない

企業側と学生が、就職活動時期だけではなく、常日頃から交われるとよい

移住にあたっては、何らかつながりのある人が四国に居て、その人が住宅や仕事のお世話をしてくれることが大きい。移住サポーターやコミュニティーファシリテーターは、自治体からNPO法人に声がかかるが、企業側も副業制度等を活用して従業員が参加できるよう協力してほしい

四国内に住んでいる我々自身が楽しく暮らしていると、外部からこの町に暮らしてみようという流れが発生する。移住は結果であり、目標にすることは適当ではない。お金をかけた分に見合った効果が上がっているかは考える必要がある

副業が可能で、地域とのつながりが多い職種に魅力を感じる人が多い。収入は多くなくとも自分の居場所や拠り所など、東京での働き方と違うものを求めているように感じる。NPOなどの地域貢献活動へ、気軽に参加・経験したい住民も多いのではないか

経験に基づいて企画できる人材、ビジネスの特性や最近のテクノロジーを理解したうえでマーケティングできる人材が四国に足りない。プログラミングの世界はスポーツに似たところがあり、体力がある若者でないとやりきれない部分がある。とにかく若い人が足りない。ベンチャーマインドというか商人魂、自分で生業ってやろうとする人材が足りない

人口の減少よりもその中身・ダイバーシティーが大切。**企画できる人、マネージャー、技術者といった価値を生む人たち、スタートアップ起業家が人口対比でみても東京よりも圧倒的に少なく、人口減の問題よりも深刻**なのではないか

四経連主導でベンチャーキャピタルをつくり、ローカルな面白いビジネスを地場の個人・ 企業が目利きしながら出資し、**四国内で次世代へ向けてお金が流れるような仕組みができる** とよい

起業支援

起業支援について、人的・金銭的支援にとどまらず、会社が倒産した場合に一定期間を別会社で雇用するなど、失敗しても大丈夫な環境を整え、チャレンジしようと思える人を増やしていけると20~30年後に大きく影響すると思う

徳島イノベーションベースは**起業家が起業家を育てていくコンセプトで活動**しており、東京にいてもなかなか会えない今の日本のトップクラスのスタートアップ経営者と直に会って話ができ、**潜在的な起業家能力を覚醒**させている。こうした取組みを**四国全体でできればよい**

人間関係が緻密にでき上がっており、誰がどこで何をやっているかを把握しやすい。**例えば創業希望のある地元の学生達を応援する体制は組みやすい**

四経連主導で事業や人材のマッチングサイトをクラウド上に作って運営してはどうか

事業継承について、黒字倒産も含めて担い手に困っている中小企業が多い

内で回す

地域に一番不足していることは、郷土愛・シビックプライド。人や経済、環境の問題は、何 **か一つの問題を解こうとすると教育の問題、人材の問題**になっていく。中心にあるのはシ ビックプライド、四国にいることが誇りにつながれば良い方向につながる 質の高い教育機関があれば人が集まり、産業も起こしていける。公共に頼るだけでなく、 民間の力も活かしながら、体系的に、生まれた時から高等教育機関まで連携して、地元で人 **を育成していく**ことを考えなければいけない 子供が自己や地域に対する肯定感を高めるために地元の伝統文化、産業などの魅力をどう伝 **えていくか**。 そういった観点の授業単位があるが、現場任せになっている。少し踏み込ん で教育委員会と一緒に、どういう人材を四国で育てたいかを検討してはどうか 価値観は自身が体験してはじめて変わるもの。地方にあるモノや環境を活かすことが凄く 魅力的だということは、**机上で学ぶだけでは伝わらない** 郷土愛を育む 一次産業従事者、モノを作っている地域の方に小中学校の教育に入ってきてもらうことは有 地域人教育等 効。企業からは、「地域と関わりを持ちたい思いはあるが、ノウハウや人材が不足してい る | との声を聞く。企業見学のスキームや、品質確保の観点から教育プログラムを作成すれ ば、地域の企業の役に立つのではないか IT、プログラミング、金融リテラシーにかかる教育分野での産学官連携は、専門性の高い人 材を育成できる機会になるのではないか。ヨーロッパでは、マイスター制など高等職業訓 練の仕組みが制度的に整っており、それを参考に、**四国で専門家、職人を育てる動きがで** きればよい 「軽井沢風越学園 | 「神山まるごと高専 | など起業家が関与してユニークな学校が創設さ れている。直接創設できないにしても、企業は寄付などの支援を真剣に考えるとき 住みやすい四国に居ながら、東京や大阪の学校とオンラインでつながり、良質な授業を受け られるサテライト校の設立は可能性があるか。また、産業維持の観点からも、その地域で働 きながら子供を育てられる環境は必要。リモート教育は大きなテーマ 経営的には、外に払っているものを減らすにはどうするかを考えなければならず、地域の 人が安いからという理由で全国展開の大規模商業施設で購入すると、地域のお金が中央に吸 **い上げられていくという仕組みを改めて皆が自覚**しなければならない 「四国お遍路通貨 | のようなプラットフォームを提供し、各自治体はそのプラットフォーム 上で、**地域内の資金流出を避ける施策**が打てるような仕組みを提供し、**観光など外部資金の** 流入を図れないか 地域循環経済 四国の一次産品を四国内企業の社食や取引先への贈答に優先使用するなど、地元企業が購 意識醸成 **入を支援**するとともに、**皆さんが地元食材をよく知ってファン**になってほしい 四国はよいものを持っているが東京に流出させすぎている。例えば東京では神戸牛・松坂 牛・但馬牛など何でも食べられるが、イタリアでは本物のフィレンチェ風ステーキはミラ ノやローマでは食べられない。何**でも外に出さず観光の素材として四国外からのお客さまを 地産地食の循環のなかに巻き込み、宿泊や物販にもつなげる発想**を持つべき 地域のレストランで、地元品目の割合(産食率)を指標として使っている。こうした小さな動 きが循環の意識を醸成していく これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄から、調達・生産・販売・利用の各段階で発生す **る廃棄をいかに減らしていくか**、各々の活動段階で考える循環経済モデルを、また**四国と していろいろな産業が循環しあっている将来像**を掲げていくべき 環境保全 **地元林業製品の利用促進**(家具・材、食器他)による林業・森林の再生につながる。少し でも杉を減らし多様な森に戻し、水源環境の回復や土砂災害の防止につなげたい 脱炭素や防災をはじめ、四国の魅力でもある**自然環境にかかる取組みは必須**

内で回す

対話の場づくり

若い人と議論する場を設けて、**価値観の違いを感じてもらいたい**。例えば、若い人の意見・取組みに優先的にお金をつける仕組みがあってもよい

経済界から、**人材育成について学校側へニーズ**(入社後すぐに身に着けられる細かなスキルではない)**を伝えることは必要**。教員や教員が企業との交流を通じて必要なものを認識・イメージできれば、**自ら知識・技能を身につけていく可能性も広がる**

内を創る

育休から復帰後に両立ができないから辞めたいという相談が多い。男性の家庭進出に向けた 教育や企業の意識変革が求められている。働きながら子供を産め、育てやすい環境づくりが 必要。子育てコミュニティーの運営に地域ぐるみで協力してもらいたい

自身の経験・スキル・アイディアで創業した女性を支援し、その女性が**ロールモデル**となれば、四国で住みたいと考える女性も増えるはず

四国で人口が多い60歳以上の世代にリスクをとって頑張ってもらわなければ、人材不足は カバーできない。60歳以上の活躍の場をもっと作らなければならない

プラチナ世代が大学で学び直し、新規事業の担い手になってほしい。学び直しを果たした者に対して、年齢にかかわらず安心して働く場を提供しないといけない

外国からの高度人材を多く受け入れ、混ざり合って変革が起きるとよい。一方、低賃金の労働力として、日本人がやりたがらない仕事で受入れることは賛成できない

人財確保

技能実習生をリスペクトし信頼関係が構築できる処遇を前提に、海外ビジネスの架け橋となった事例もある

四国の外国人留学生の大半が都会の企業に就職している。地元企業と留学生が上手くつながっていない。就職支援の場もあるが、都市部に比べ、頻度も参加企業数も少ない

外国人労働者からみた日本は、給与水準は高くなく、また日本語の習得困難かつ汎用性が高くないことも手伝い、**魅力的な国ではなくなっている**。例えば**英語や中国語を用い、治安の良さなどの魅力を発信すべき**

大企業の若くて元気のある方に2~3年農業法人で一緒に働いてもらうと面白い。**他業種と関わり、互いにメリットのある取組みができれば強力な産業に育てられる**。むしろ、**異分野や一般企業を分けて考えているのは日本だけではないか**と感じる

四経連が主導して、**他地域・異業種の企業、地元一次産業に出向するようなプログラムを斡旋**してほしい。出向先、業種や会社の組み合わせが大事で、人材交流で視野を広げ、お互いのスキルアップができればよい

人口減少に伴い交通機関の利用者も減少し、鉄道・バス・タクシー各業界の収益は低下していく。**利用者の需給にあった地方版MaaS**を進めるには、制御センターを連合的に手掛けていくなど段階的な協業が必要

インフラの 維持・整備

新幹線誘致を推進しているが、四国4県において、**必要かどうかの議論が十分に盛り上がっていない**。経済交流が活発化するメリットや、一方で費用がかかるデメリットがあることについて議論すら起こっていないことは問題。**議論する土壌・場をつくっていく発想が必要**

防災、観光の観点から、高速道路の整備、新幹線が必要

将来世代にプラスの遺産を遺すよりも、負の遺産を遺さないことを重視してほしい。**使われない土地が大量にあるなど、後の世代に負担をかけるインフラなどはリストラクチャリングしていかなければならない**。空き家・空き地をもっと活用できるように規制緩和すべき

自治体間で温度差の大きい**スマートシティに関する議論や、長期的な観点からの土地の使い** 方について、経済団体から行政に対して提言してほしい

その他

経済界での 支援体制整備

アクションを起こしていくにあたって一番重要になるのは推進体制。「資金」と「人員」という 2 つの面について考えておくべき

「資金」については、例えば**企業の利益の0.1\%を事業に投入してもらう仕組み**。あくまで例示だが1つのモデルを示すことによって、行政等からの支援も得られるといった流れも期待できる



https://yonkeiren.jp/

四国経済連合会

〒760-0033 高松市丸の内2番5号

(ヨンデンビル本館4階)

TEL: 087-851-6032

